

第12回 下関市まち・ひと・しごと創生推進会議
委員からの意見(抜粋)

意見	最近改善されつつあるが中心市街地に空き家が多く、ここの利用が進まないと次につながらない。
意見	中国発クルーズ客船は、市内消費が芳しくなかった。以前、市で対応いただいていた、クルー(乗組員)向けのシャトルバスなどを検討して欲しい。
意見	市で起業を促しているが、個人的な感覚として、その業種が必要で求められている産業なのか、という疑問はある。起業は大事であるが、「なぜ・どうして下関か」「下関に必要なもの」を意識して取り組んで欲しい。
意見	まず地元の大企業に売上を上げてもらう施策を展開し、雇用を増やして欲しい。大学生が下関市に就職しない理由は、大企業がないことが一番。受入先となる地元の大手の産業を活性化し、企業を育て、そこで働きたい人を増やすことが大切。企業でスキルを磨いた上での起業はあり得る。
意見	市内の多くの大学生にとって下関は地元ではない。“地元”という感覚の共通認識が改めて必要。
意見	市外に出ていく人材が出ることは当然だが、市外から帰ってくる人材を受け入れる体制も必要。人口減少は全国的な問題であり、都市間競争でもある。何をすれば人口が増えるのか、来てもらえるのかという点について、総花ではなく一点集中で考えるとともに、官民をあげて考えていく必要がある。
質問	サテライトオフィス誘致について、全国的に誘致競争が激しい中、市の売り・ターゲット・誘致場所などは。 ▼事務局回答 そもそもの誘致のターゲットは首都圏、田園回帰がテーマであったが、現状の取組の中では市としてのメリットが出にくく招致できていない。市としてポテンシャルはあるものの、他地域との比較において実績につながっていないと考える
質問	定住人口の増加に関して、観光のインバウンド消費に期待する話題があった。EU層の消費額は特に大きいと聞いているが、EU層に特化した施策はあるのか。 ▼事務局回答 EU層に対するインバウンドの取組は、現状市の施策としては展開されていない。
意見	全体的に見て、市としてボトムアップ事業は幅広く網羅されていると思うが、一方で市がどこを目指しているかが見えにくい。いずれかの分野に特化することには批判も生まれるかもしれないが、位置づけを明確にする必要はある。まちづくり・地域づくりにはスパイスが必要。 あるかぽ〜と・火の山のビッグプロジェクトには期待している、わかりやすい成果が生まれることを期待している。